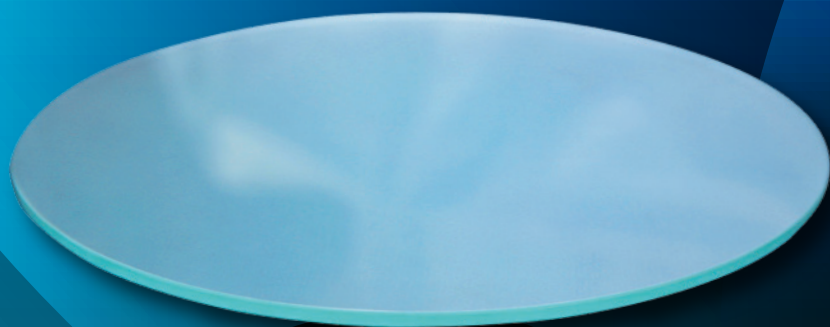
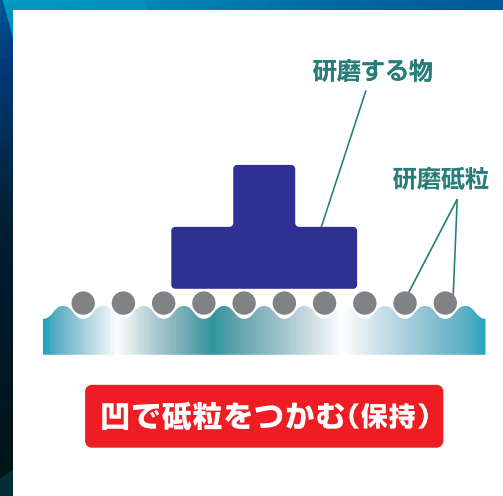


新製品 自動研磨装置用

ガラス製研磨台



特許出願中



● 特 徴

- ・ガラスの平滑度と硬さを生かし、硬い物を平滑（エッジだれが起こりにくい）に磨くことができる。
- ・微細な研磨材でサンドブラストするため、表面粗さを細かく（0.05 ミクロンまで）加工できる。
- ・研磨速度が速く、簡単に面出しができる。
- ・従来の面出しに使用するSIC紙では、耐久性がないため、頻繁に交換する必要があり、解析面を出すまでに時間がかかるなど課題がある。

● 用 途

- ・半導体製造
- ・光学（光学レンズ）製造
- ・大学、研究所等における電子顕微鏡解析時等
- ・微細な加工技術を必要とする金型分野



有限会社
進功ブラスト工業所
SHINKO BLAST FACTORY Co.,Ltd.

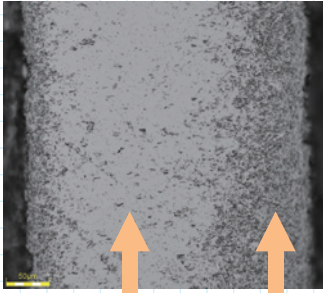
〒577-0016 大阪府東大阪市長田西5丁目3-11
TEL 06-6745-2997 FAX 06-6745-8156
<http://shinko-blast.jp/>

従来法とガラス研磨の研磨比較

● ガラス研磨台では、試料研磨の面出しが簡単

従来法 (SIC 紙)

SIC 研磨紙 #320
30N-5min

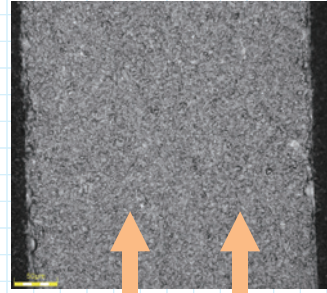


ピントが
合っている

ピントが
合っていない

ガラス板

ガラス研磨台 — ダイヤモンド砥粒
30N-5min



ピントが
合っている

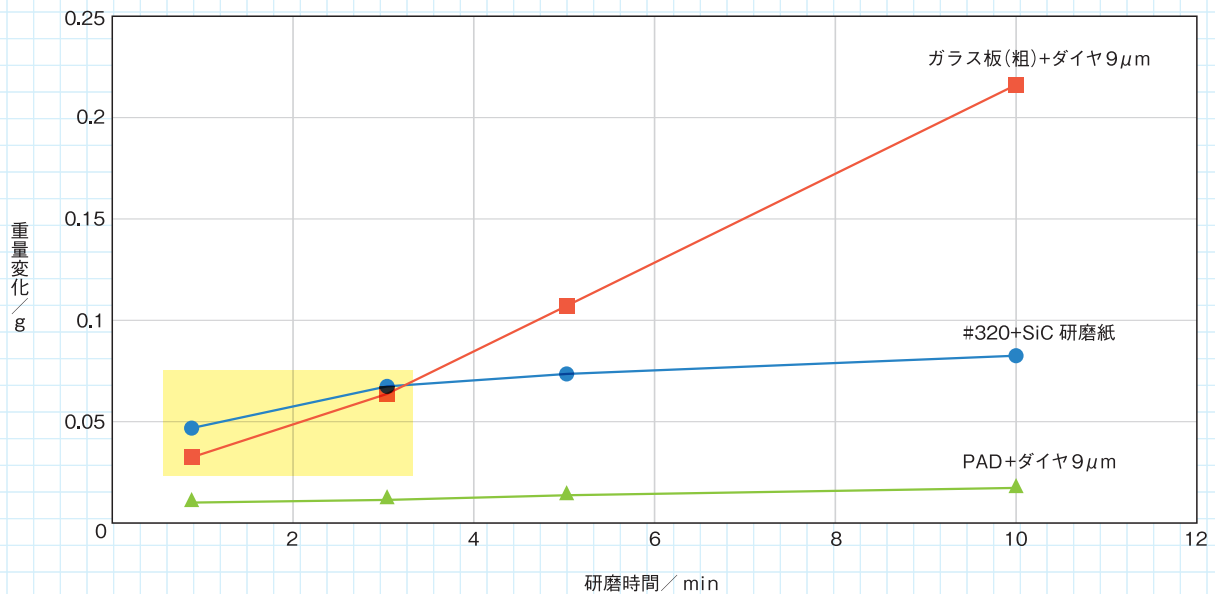
ピントが
合っている

ガラス製研磨台を使用して試料の面出し研磨をした場合エッジダレを起こしにくい。

評価試験は、(独)京都市産業技術研究所にて行いました。

● 研磨紙耐久性評価

ガラス板とSIC 研磨紙の比較 (重量変化)



SIC 研磨紙は使用開始後3分までは、研磨能力が高いが、3分以降はガラス板より研磨能力が低くなる。一方で、ガラス板の重量変化は10分間使用しても研削能力はほぼ一定で、繰り返し使用ができる。

備考) 荷重は 30N、各種研磨法の重量変化はガラス棒 3本の重量変化の平均値により算出 データ出所元: (独)京都市産業技術研究所にて検証